

「ミートハブ・マードーズ あるいは、肉でいっぱい宇宙そら 紹介文」

岡和田晃

『エクリップス・フェイス』日本語版翻訳監修者の朱鷺田祐介による「ミートハブ・マードーズ あるいは、肉でいっぱい宇宙そら」をお届けしよう。

あなたは、筒井康隆の「あるいは酒でいっぱい海」をご存知だろうか。あるいはアヴラム・デイヴィッドソンの「あるいは牡蠣でいっぱい海」は？ いずれも劣らぬユーマアSFの名編で、ネタを割らないために詳述は避けるが、未読の方は、ご一読をお薦めしておきたい。

これらの作品にオマージュを捧げた「ミートハブ・マードーズ あるいは、肉でいっぱい宇宙そら」は、『エクリップス・フェイス』のゲーム・セッションの雰囲気を活かしながら、たっぷりもユーマアが盛り込まれている。

といっても、独自解釈で世界観を破壊しているわけではなく、舞台となるハビタット「ミートハブ」は、基本ルールブックに記載されているれっきとした公式設定で、土星

圏に位置する。

高速培養されたベーコンが、そのまま居住区域になったものだ。このような奇抜な設定もまた、『エクリップス・フェイズ』の魅力である。

「ミートハブ」や土星圏については、[「Role&Roll」 Vol. 117](#)でも詳しく紹介されているので、あわせてお読みいただければ幸いだ。

ゲームデザイナーとしての朱鷺田祐介を語るうえで、ユーモアという切り口は外せない。もとは読者参加ゲームだった『パラダイス・フリートRPG』は、トランプの「大貧民」をベースにした独自の判定方法を駆使して宇宙を駆けまわるユーモア・スペースオペラRPGだが、現在は電子書籍で入手が可能になっている。